

## ～ ～ 第 43 回関西環境管理者交流会 ～ ～

(神戸・京都・滋賀 3 地区共催事業)

第 43 回の交流会は、神戸地区環境保全協会様が幹事となり、(株)神戸製鋼所内にあります灘浜サイエンススクエアで下記のプログラムで開催されました。

参加者 50 名中、当協会からは 12 名の会員の方々に参加していただきました。

### 【 プログラム 】

開催日時 平成 29 年 7 月 4 日 (火)

13:30～14:00 挨拶、3 団体の活動紹介、

14:00～16:30 神戸発電所見学、灘浜サイエンススクエア展示室見学

17:00～18:30 懇親会

神戸製鋼所様といえば、製鉄所というイメージがありましたが、1995 年の「阪神淡路大震災」を契機に大都市におけるライフラインの重要性が高まり、災害に強い都市づくりの一環として地域と共生する新しいスタイルの「都市型発電所」として永年製鉄所として培われてきた自家発電技術とノウハウ、及び環境技術、石炭ハンドリング技術を集約して最新鋭の発電設備の石炭火力発電として神戸発電所が出来ました。2002 年に 1 号機、2004 年に 2 号機がそれぞれ運転を開始して総出力 140 万 Kw の発電所として稼働を始めております。当日は、晴天でしたら、屋上からボイラー等を見学する予定でしたが、台風 3 号の接近であいにくの大雨となり、発電所内の屋内見学となりましたが、それでもタービンフロアや中央操作室見学は見る者を圧倒しました。発電所にたくさんの人が働いていると思っておりましたが、発電設備全体をコンピュータで 24 時間監視・制御している中央操作室に 10 人足らずの人がモニターで監視している人達以外は、人影を見ることはありませんでした。工場内見学の後、燃料となる石炭の荷揚げの港から 12 基もある石炭サイロそして微粉炭機で石炭が破碎され、ボイラーで燃焼されるまでの各建屋の役割をバスで発電所の外周をまわりながら、説明を受けました。めったに入れない施設でしたのでとても刺激を受けました。

そしてこの 2 基で神戸市のピーク時の電力需要の約 70%をまかなうことが出来ると聞いたときにはもっと驚かされました。見学終了後は灘浜サイエンススクエア内の展示室を見学して「製鉄・発電・エネルギー・環境」について科学や技術の面白さ、不思議さを体感しました。

工場見学が終わる頃には、雨も上がり、懇親会場の神戸市役所 24 階レストランからは今見学したばかりの神戸発電所を眼下に見とれながら、その敷地の広さに驚きましたが、それでも神戸製鉄所の 1/3 の敷地でしかないと聞かされるともっと吃驚しました。また今年は神戸開港 150 周年とのことで夜景を期待しておりましたが、懇親会も賑やかな内にアツという間に終わり見ることは叶いませんでした。

### 【工場見学】

ボイラー建屋



中央操作室



ボイラー1号機

